

2021年8月22日（日）メッセージアウトライン 「聖餐式」

聖書箇所：Iコリント11：23～29

タイトル：「聖餐式」

テーマ：2週間前のメッセージで、「洗礼」についてお話ししましたが、本日は「聖餐式」についてお話をさせていただきます。聖餐式も教会の聖礼典と呼ばれるものの一つです。聖礼典と認められるための3つの条件を前回お伝えしましたが、①キリストの命令があること、②使徒の働きで実行されていること、③書簡でその神学的意味が説明されていること、でした。

ただ、「聖餐式」という言葉は聖書には出て来ません。今日は聖書の中から、「聖餐式」にあたる言葉をピックアップし、「聖餐式」の意味とその目的、誰が聖餐に与れるのかなどを考えながら、私たちが「聖餐式」の恵みに与ることのできる者とされていることを再確認し、9月の聖餐式に臨みたいと思います。

1. 「聖餐式」を示す言葉

①主の晩餐（Iコリント11：20）

「しかし、そういうわけで、あなたがたと一緒に集まっても主の晩餐を食べることにはなりません。

②主の食卓（Iコリント10：21）

「あなたがたは、主の杯を飲みながら、悪霊の杯を飲むことはできません。主の食卓に与りながら、悪霊の食卓に与ることはできません。」

③パンを裂く（使徒2：42、20：7）

「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。」

④ユーカリスト

*ギリシア語の感謝（ユーカリステオウ）という言葉から（例としてマルコ14：23）

⑤ユーロギア

*ギリシア語で「祝福」（ユーロギア）という言葉から（例 Iコリント10：16a）

⑥コミュニオン

*ギリシア語の「コイノニア」（交わり）の英語訳（例 Iコリント10：16）

「あずかる」がコイノニアである。これはキリストとの交わりを意味している

⑦ミサ（聖体拝領）The Mass（聖書的根拠なし）

2. 聖餐式の意味（大きく分けて4つの説がある）

①カトリックの化体説（けたいせつ）

②実存共存説（ルター派と聖公会）

③霊的存在説（ジョン・カルバンの立場）

④記念説（ツヴィングリが提唱） 私たちもこの立場である

* 聖餐式はイエス様を記念するために行うもの I コリント 11 : 24

* キリストの再臨の時まで主の死を告げ知らせる I コリント 11 : 26

聖餐式はキリストの死を記念し、再臨の時までそれを告げ知らせること

3. 聖餐式の目的

①キリストを記念すること

②キリストの死を宣言すること

③キリストの再臨の保証

* 「主が来られるまで」（I コリント 11 : 26）

④キリストとの交わり、信者の交わりの時

* I コリント 10 : 21 主の食卓にあずかる＝主と交わる、この聖餐式の中に主のご臨在がある

4. 参加資格

①新生を体験している人（すなわちイエス・キリストを主と信じている人）

②水の洗礼を受けているかどうか——教団教派によって異なる

③自己吟味 I コリント 11 : 27～28

* 主の前に告白すべき罪はないか

* パンとぶどう酒が象徴していることを確認する

* 自らの信仰の歩みの確認

* 主がしてくださったことへの感謝と畏怖の念

* 自己吟味しない事への警告 I コリント 11 : 29～31

5. 聖餐式の形態

①場所（教会——信者の群れが集まる場所）家の教会

* 聖餐式は交わり 使徒 20 : 7、I コリント 11 : 18, 20, 33, 34

* 最後の晩餐は過ぎ越しの食事（イエス様と弟子たちの交わり）

②パンとぶどう酒

6. 結論